



松江一騎支社長

このほど創立50周年を迎える一般社団法人東京都冷凍空調設備協会(略称)東冷協、会長(渋谷俊徳氏)においては、東京支社(支社長・松江一騎氏、所在地・東京都千代田区霞が関)が中央地域部会の一員に名を連ねるユニパック(社長・松江昭彦氏)。同社は、冷凍空調設備の施工・保守・メンテナンスの企業であるとともに、洗浄再生フィルターのメーカーでもある。フィルターとしてユニパックは、新型コロナウイルスによる空気の安全・安心に対する心配がある。そこでユニパックでは、同飛沫も捕集し、捕

富士ファイルム独自の持続除菌技術「Hydro Ag+」を活用した業界初の「超親水性持続抗菌フィルター」として、天井室内機に無改造で使える「涼風Ag+」と学校空調の天吊室内機にも対応する「涼風Ag+」を開発し販売を始めている。

凡そ5マイクロg以下の中の粒子による空気感染(本邦ではマイクロ飛沫感染と呼んでいる)も感染経路の可能性として考えられるとの指摘が出てきている。

5マイクロg以下の新型コロナウイルスを含んだ飛沫は、業務用エアコン室内機に標準搭載され

「Hydro Ag+」技術を組合せた超親水性持続抗菌フィルターを開発した。

「Hydro Ag+」は、ユニパックが開発するにあたり、富士ファイルムのメディカル用アタッチメントとフィルタークリーニングで後付けが可能。同社は本製品を構える埼玉県川口市内の放課後児童保育施設40カ所で導入され、利用

身がフィルター表面の被膜を再度形成するので、再利用時の抗菌効果が保証できる点もポイントだ。

「涼風Ag+」「涼風Ag+」は、ユニパックが構える埼玉県川口市内の放課後児童保育施設40カ所で導入され、利用

ユニパックが富士ファイルムと業務提携し

業界初の「超親水性持続抗菌フィルター」開発

川口市内40カ所の放課後児童保育施設に導入

両製品共通の特長として

①「Hydro Ag+」技術を活用した持続性の高い抗菌効果(フ

イルターろ材上での抗菌

性を第三者機関で認定

済)、②洗浄により再利

用可能、③内機の定期整

備が不要となり維持費を削減等が挙げられる。「涼風Ag+」は天力セ用標



「涼風Ag+」

同社では東京都内でも同様の不安の抱える放課後児童保育施設は多いとし、これらを顧客とする東冷協会員に

「涼風Ag+」の活用を促したい考え(実機による説明も随時行つて)いる。